

いわちゃん ポスト

岩井やすのりの県政かわら版

千葉県議会議員



岩井やすのり

1970 年（昭和 45 年）生まれ 県立君津高卒
専修大卒、早稲田大学院 政治学研究科修了

事務所連絡先 Fax : 0476-36-7802

メール : iwai.yasunori@outlook.jp

〒270-1515 印旛郡栄町安食台 2-26-23（栄町役場前）



YouTube
でもっと詳しく！



鎌ヶ谷本埜線バイパス 開通後2年で2件の死亡事故

令和6年(2024 年)に開通した県道鎌ヶ谷本埜線バイパスですが、死亡事故2件など重大人身事故の発生が相次いでいます。

●橋梁前後に集中する重大人身事故

重大人身事故が相次いでいるのは、栄町安食と印西市萩原を結ぶ新設道路です。全長 4.5 キロという短い区間ですが、供用開始からわずか 2 年間で死亡事故 2 件発生しており、県内で最も危険な道路の一つとなっています。

同バイパスは直線道路が続く上に信号機が 1 基も設置されていないため、走行する車両のスピードが法定速度の 60 キロを超過しがち。80 キロ、90 キロといった高速で走り抜ける車両も見受けられ、地元住民から道路を横断するのが怖いという声が多く聞かれる状況にあります。

下表 4 件のうち①②が物木橋、③が下井橋付近と、重大事故が橋梁前後に事故が集中していることが大きな特徴です。両橋梁部分はやや盛り上がる形となっており、走行車両のドライバーにとっ

鎌ヶ谷本埜線バイパスでの重大事故

番号	発生日		事故の概要
	令和	月日	
①	6 年	6/12	四輪車が自転車に追突する死亡事故
②	6 年	8/1	四輪車が高齢者をはねる
③	6 年	11/21	四輪車が四輪車に追突
④	8 年	1/15	四輪車が四輪車に衝突する死亡事故

て、橋梁より先の状況が見通しづらくなっています。スピードを出した車両が他の車両や自転車の存在に気づくのが遅れ、大きな事故に繋がってしまっているわけです。

●6月県議会にて緊急安全対策の実施を求める

信号機のない直線道路という性質上、今後もさらなる事故発生が懸念されるところです。バイパスを走行する車両の事故発生を防ぐことに加え、沿線で生活する地域住民の安心の確保のためにも対策強化が求められます。

6 月県議会ではこの問題を取り上げ、路面表示等による速度抑制や、見通しの悪い橋梁付近での注意喚起、可搬式オービスを活用した速度取締りなど、鎌ヶ谷本埜線バイパスの緊急安全対策の実施を強く求めたいと思います。



印西市・草深に変電所建設計画 近隣住民動揺

引き続きデータセンターの進出が相次ぐ印西市で、住宅隣接地での変電所建設計画が明らかとなり、住民から困惑の声が上がっています。

●突然の完成予想図、工程表配布に驚きの声

問題となっているのは、印西市草深の市街化調整区域です。ヤマザキデイリーストア印西新井堀店の向かい側で、旧医療施設建物の裏手にあたる土地。市街化調整区域とはいえ、すぐ西側には高花地区の住宅街が広がり、市民の憩いの場である「草深の森」に隣接する場所でもあります。

関係者によれば、事業者である東京電力 PG（パワーグリッド）社は今年初頭の時点で、近隣自治会に変電所建設計画を明らかにしていたものの、詳細は未定として資料も示していなかったとのこと。それが4月19日になって突然、変電所の規模や完成予想図、工程表などが配られて、住民は驚いたと言

います。翌20日に東京電力PG社など関係者に問い合わせたものの、「現在協議中」と返すのみ。許可の有無さえ明言されず、住民側が確認できたのは建設予定地の土地名義が事業者側に移転済みであることのみだったと、情報不足にも憤っているのです。

2024年に稼働開始となっている千葉印西変電所は準工業地域に立地し、周辺に民家が多くないのに対し、今回は住宅街や市民の森に隣接している場所。電磁波による健康被害や景観の破壊に懸念する声上がるのも無理はありません。

●事業者による住民説明会は義務ではないが

ここで法的な話をするならば、変電所施設は都市計画法上の「公益上必要な建築物」に該当するため、開発区域の面積や場所（市街化調整区域であっても）に関わらず、同法に基づく開発許可は原則不要となっています。また、印西市の開発事業指導要綱で事業計画の周知を行うよう定められているものの、周知の範囲は事業区域に隣接する地権者、周辺住民、町内会（自治会）等となっており、別の言い方をすれば、事業者による住民説明会の開催について求められてはいないのです。

とはいえ、同地区は高齢者が多く生活し、近隣住民や隣接する市民施設利用者への影響懸念の声は大きいところ。事業者側はできるだけ早期に住民説明会を開き、住民の声に耳を傾ける必要があります。住民からの相談を受け、岩井としても行政や事業者側に接触しながら、広く理解の得られる着地点をもとに模索していきたいと思っています。

